



辻 史子

公明党田原市議員



屈折検査機器についての市の見解は

3歳児健康診査における視力検査の有効性を高めることにつながるものと考えている

多様性を認め合う社会の実現に向けた取り組みについて

- 問** SDGsの理念に基づく「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す取り組みとして、性の多様性を尊重する支援制度（パートナーシップ支援制度）の導入をするべきと考えるが、今後の取り組みは。
- 答** 支援制度の導入については、前向きに検討するとともに、引き続き市民の参加と協働の下、多様性を認め合う社会の実現に向けて積極的に取り組んでいく。



子宮頸がんワクチン接種について

- 問** 積極的勧奨の再開に向けて対象者に国の方針が変わったことなどを速やかに周知するため、どのように情報提供をする予定か。
- 答** 有効性とリスクを理解した上で接種するか否か判断できるよう、国がリーフレットを改訂している。今後、本人や保護者に向けて、改訂後のリーフレッ

トを用いて情報を正しく伝えていきたい。併せて、予診票と接種できる医療機関や接種間隔などの情報を同封し、対象者に通知していきたい。

子どもの弱視の早期発見について

- 問** 屈折検査は、簡単な操作で、数秒で弱視の判定を数値で示し、客観的で正確な検査結果が得られ、本市においても導入する効果は大きいと考える。3歳児健康診査のスクリーニング検査(*)として非常に有効な屈折検査機器について市の見解は。
- 答** 屈折検査機器を導入している自治体の健診結果では、屈折異常の弱視の早期の発見率が導入前の0.6%から導入後2.3%となったとの報告がある。従来の検査方法と屈折検査機器を併用することは、3歳児健康診査における視力検査の有効性を高めることにつながるものと考えている。

※ スクリーニング検査
無症状の者を対象に、疾患の疑いのある者を発見するための検査



- P 6 大竹 正章 予算編成について
- P 7 辻 史子 多様性を認め合う社会の実現に向けた取り組みについて
子宮頸がんワクチン接種について
子どもの弱視の早期発見について
- P 8 村上 誠 公共施設適正化の推進について
- P 8 内藤喜久枝 高齢者の多様な活躍に関する取り組みについて
- P 9 平松 昭徳 カーボンニュートラルについて
- P 10 内藤 浩 本市におけるDX推進について
- P 11 岡本 重明 まちづくりについて